

令和元（平成 31）年度第三者評価

評価結果報告書

【大井町のぞみ保育園】

令和 2 年 3 月

評価機関：株式会社 にほんの福祉ネット

公表中の評価結果の見方

1. ふくナビ <http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/> にて、「第三者評価」をクリック
 2. 「② 評価結果などの検索（比較）」の下にある「評価結果を検索する（検索）」をクリック
 3. 事業所名を入力して検索
- 以上です。

そのほかの確認方法を記します。

1. ふくナビ <http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/> にて、左上にある「事業所情報」をクリック
2. 「事業所名から探す」をクリック
3. 事業所を入力して検索

評点基準

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価します。評点では表現しきれない貴事業所の実態やサービスの質については、講評に記載します。利用者調査には、評点はつきません。

評点基準 <カテゴリー1～6>	
評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとにつける。 1 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す 2 ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。 3 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く	
標準項目の定義	東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。
確認方法	標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること

評点基準<カテゴリー7>	
「目標の設定と取り組み」「取り組みと検証」「検証結果の反映」については、確認できた内容（それぞれ一つ）が●で表されます。	
確認方法	事業者がそれぞれの重要課題について前年度に具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証した上で、今年度以降の目標設定や取り組みに反映しているかどうかの確認とする。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ①生きる力の基礎を育てる ②違いを認め合える気持ちを育てる ③見通しを持って生活をする ④自分で考えて行動できる
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 「子どもにとってどうなのか」と常に子どもの立場になって考えられる人材 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 自分自身で1年間、期毎、クラス運営、行事起案など、目標をもち努力すること。 具体的にどのように行ったのか、結果どうだったのかを振り返り、次の目標に繋げることが出来るようになること。 リーダー制の導入による人材育成によるリーダー・メンバーそれぞれの成長に繋げること。

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、50世帯を対象に実施した。

調査方法

初の試みとして、ウェブ回答システムを導入した。各家庭にて機関より配布したQRコードを読み込んだ上で、個別に匿名での回答を行うこととした。希望者には紙の帳票を配布し、評価機関への郵送を通じて回収を行った。

利用者総数
利用者家族総数（世帯）
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合（％）

58

50

50

27

54.0

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞

「満足」65%、「やや満足」31%、計96%という満足度が示された。

＜調査結果の講評について＞

- ・質問における各回答の割合については、無回答は除いた。
- ・肯定的な評価（「はい」との回答）が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	26	1	0	0
回答者の96%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	26	1	0	0
回答者の96%が「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	25	2	0	0
回答者の93%が「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	24	3	0	0
回答者の89%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	18	3	2	4
回答者の67%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	2	1	0
回答者の89%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	26	1	0	0
回答者の96%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	21	5	0	1
回答者の78%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	25	1	0	1
回答者の96%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	24	2	0	1
回答者の89%が「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	24	2	1	0
回答者の89%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	17	6	0	4
回答者の63%が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	23	3	0	1
回答者の88%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	24	1	0	2
回答者の89%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	23	4	0	0
回答者の85%が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	22	1	1	3
回答者の81%が「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	13	5	2	7
回答者の50%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ☐ 非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念や方針、目標の浸透と実践を図っている 共通認識に基づく園運営・保育実践を確かなものとするべく、基本理念や保育方針、保育目標などを明確化している。その上で、玄関や事務室への掲示、新入職員向けの研修などにより、浸透を図っている。また、方向性の確認や助言・指導を通して、理念に基づく取り組み、一貫した保育実践を追求している。	
	職員の理解・納得を運営上大切にしている 組織における職責については、職務記述書において定めている。主任、乳児・幼児・クラスの各リーダーやクラス担当、看護師・栄養士・調理士などの専門職、保育補助や事務など、それぞれの職務に応じて5つのレベルを設け、職務内容や責任を明確化している。現園長の下での職員体制となって2年目の今年度は、なるべく職員の意見や考えに耳を傾け、気になった点については、否定・指示・命令ではなく気づきを促し、職員の自主性・主体性を後押しするかかわりを心がけている。	

3 経営における社会的責任			
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	☐ 非該当	
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当	
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当	

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当	
カテゴリ3の講評			
職業倫理の理解・定着を図る取り組みを行っている 事業計画には、保育士倫理綱領を掲げ、同綱領に基づく保育の実践を当園の保育のあり方の根底に据えている。また、業務に携わる上で守るべき法・倫理・規範などについて、職員全体に対して理解を深めるための取り組みを行っている。特に年に一度、コンプライアンス研修を実施している。運営法人としてコンプライアンスに関する方針を明確化した上で、個人情報保護の意義や内容、コンプライアンス違反に直面した時の行動などについて周知し、確認テストにより理解度の確認や定着を図っている。			
様々な取り組みにより透明性の確保を図っている 厚労省の通知に基づき、社会福祉事業について知識経験を有する者、保育サービスの利用者及び実務を担当する幹部職員を含む運営委員会を設置している。保護者の生の声や他の参加者の客観的な意見などをもとに、課題点を抽出し、運営の向上につなげている。特に、法人運営の各園とのかかわりのある講師の参加は、有益なものとなっている。そのほか、リーフレットの配布、掲示板による情報の発信、見学の随時受け入れなどにより、透明性の確保を図っている。			
系列園との連携により情報の収集や共通の課題の取り組みを行っている 区内の私立園長会への参加により、地域の保育事業をめぐる動向や共通の課題について情報収集や検討を行っている。また、運営法人を同じくする系列園の園長会では、環境設定の方法、行事の報告など、各園の取り組みを共有したり、必要に応じて対応方法の統一化を図ったりするなど、共通認識に基づきつつ各園が強みを発揮していけるように取り組んでいる。			
カテゴリ4			
4	リスクマネジメント		
サブカテゴリ1(4-1)			
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	1/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
評点(○●●●●)			
評価	標準項目		
○ あり ● なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当	
○ あり ● なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当	
○ あり ● なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当	
○ あり ● なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当	

サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(0000)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリー4の講評 安全な環境の維持・向上に取り組んでいる 事故や事故に至らない事例(ヒヤリ・ハット)、苦情などの事態が生じた場合は、事態の性質により領域別に分類した上で、発生内容(状況、職員配置、職員の意識)を確認し、今後の対策を決定し、周知している。この間の経過や事後処理についても、記録している。職員会議の中で行うリスクマネジメント会議での検討により、要因分析や再発防止について職員全体で取り組んでいる。 情報の利用と保護の両立を図っている 収集・蓄積した情報は、紙ベース、電子データとも、適性な利用と厳格な保護とを図る適切な管理を行っている。子ども一人ひとりの成育歴や経過記録などについては、施錠できるキャビネットに保管している。パソコンについてはアクセス権限を設定し、さらに各フォルダへのアクセスについても権限を決定している。 個人情報保護のための体制を整え、その意義や内容の浸透を図っている 法人として、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者としての認定を受けており、顧客、法令、自社、同制度の同制度の規格それぞれの視点からの要求事項に応えうる個人情報保護のためのマネジメントシステムを確立している。職員に対しては、年に一度、コンプライアンス研修を実施し、個人情報保護の意義や内容、コンプライアンス違反に直面した時の行動などについて周知し、確認テストにより理解度の確認や定着を図っている。		
カテゴリー5 5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		9/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(00)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(00)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(○●●●)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当	
○ あり ● なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当	
○ あり ● なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当	
○ あり ● なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(○○○○)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当	
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(○○○)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当	
カテゴリー5の講評			
一人ひとりの意識や力量に即した育成を行っている クラスリーダー出身の現園長の下での職員体制となって2年目、法人の理念やこれまでに大切にしてきた考えなどを押さえながら、トップダウンではなく、リーダー会議での協議を経て方向性を共有していくなど、一体となった運営を進めている。またなるべく職員の意見や考えに耳を傾け、気になった点については、否定・指示・命令ではなく気づきを促し、職員の自主性・主体性を後押しするかかわりを心がけている。こうした関わりを通して、一人ひとりの成長を支援している。			
士気の向上と職場への定着を図っている 職員一人ひとりの力量を見ながら、力をつけていくべき部分については、主に園長を中心に根気強く丁寧に指導をしている。本社スーパーバイザーによる現状の把握や助言、就業状況の改善に向けた取り組みなどにより、一人ひとりの着実な育成と定着を図っている。			

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 人材育成の観点から他施設との交流を課題として設定した。そして複数回の交流の機会を持ち、当園の参考とするとともに、職員各自の振り返りや保育の質の向上を図ることとした。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 合計で13回、交流の機会を持つことが出来た。子どもへの接し方や声のかけ方、声の大きさなどは、他園の実践に触れることで、「現状のままが良いのか」「どのような形が望ましいのか」を考える機会となる。こうして得た刺激を実践の向上につなげていくことは連携のあり方、社会資源の活用の仕方としてもとても有効である。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

新園長への交代による現在の体制となって初年度は、これまでのやり方を大きく変えることはせず、特にクラスリーダー出身ということもあり、リーダー層の職員との意思疎通は円滑で、相互理解がある。これを活かし、現場での議論や職員自身の考えを促し、理解や納得を前提とした運営を心掛けてきた。

目標の設定と 取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

法人の理念やこれまでに大切にしてきた考えなどを踏まえて、リーダー会議での協議を経て方向性を共有していくなど、一体となった運営を進めている。なるべく職員の意見や考えに耳を傾け、気になった点についてはく気づきを促し、職員の自主性・主体性を後押しするかかわりを実践している。着実な組織作りが進んでいる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当	
サブカテゴリ1の講評			
運営会社のホームページにて、保育園の概要を案内している 運営法人のホームページでは、直営の認可保育園の一つとして、0歳児～2歳児クラスでは担当の保育士が子どもたち一人ひとりに丁寧できめ細やかな対応を行うこと（育児担当制）、日々の生活の中でわらべうたを取り入れ、歌いながら遊ぶことで言葉を覚えたり、情緒の安定を図ったりしていること（わらべうた）、また、幼児3～5歳児クラスでは、年齢が異なる子ども同士と一緒に過ごしていること（異年齢混合保育）など、当園の保育の特徴を明示している。また、日常生活・活動の様子を写真を用いて紹介している。 入園の問い合わせには、保護者の都合に合わせて対応している 利用希望者等の問い合わせに対しては、電話による場合は即対応し、見学の希望者に対しては、園での様子を見ることができるよう、土曜日も含め日中の見学を推奨し、可能な限り希望に沿って対応している。そして、見学時には、利用希望者が求めているサービスがどのようなものなのかを確認し、合わせて、当園の提供しているサービス内容を記載した園のしおりなどを用いて、個別のニーズに応じた説明を行っている。これらの記録は、問い合わせ記録や見学記録に残し、その後の問い合わせに対応できるようにしている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園のしおりを用いて、基本的ルール等を案内している 入園児健康診断・面接の機会や入園説明会など、入園前および入園直後の機会を捉えて、園での生活に関する基本事項について説明している。そこでは、園の理念や園での生活の概要、年間行事のほか、持ち物などについて、「入園のしおり」を用いて具体的に説明をしている。また、災害時の対応方法や保険制度についても、各種文書により説明している。そして、利用内容について十分に説明した上で、「入園説明承諾書」を用いて利用者(保護者)の同意を得ている。 入園に際し、児童票をもとに、保育する上での要望を把握している 入園にあたっては、保育時間はもとより、子どもの体調、生活上の留意事項など、保護者の状況や意向について確認している。そのほか、成長・発達の状況などの入園前の子どもの様子や、食事、健診などの状況について確認し記録している。利用開始時には、保護者の就業開始日より前に、子どもを短時間から預かり、子どもが徐々に新しい環境に慣れるよう、配慮している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評			
全体的な計画、年齢別の計画に加え、個別の指導計画を作成している 園として進めていく保育の内容・方向性について、全体的な計画としてまとめている。その上で、年齢ごとに指導計画を作成している。計画は、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各要素に応じた項目立てを行い、年齢別に目標設定を行っている。これをもとに、月・週・日ごとの短期的な指導計画を作成している。また乳児クラスの子どもについては、一人ひとりの特性を踏まえた個別の計画を作成している。 個々の子どもの成長の様子や援助内容の共有を図っている 年、月、週、日それぞれの計画にはねらいを設定し、それを踏まえた活動内容と職員のかかわり(援助)を位置づけ、実践を図っている。個別指導計画に基づく日々の保育の実施内容は、日誌に記録している。また1ヶ月の保育のねらいや実施内容、振り返りは、個人記録に毎月まとめている。その上で、保育実践の裏付けとなる記録類を職員全体で共有するとともに、職員間の共通理解が必要な事項は会議を通して確認・周知を図っている。			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1		評点(〇〇)	
子どものプライバシー保護を徹底している			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2		評点(〇〇〇)	
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報や羞恥心への配慮を行っている 保育・教育効果を高める、適切な管理をする、健康管理、必要時の連絡、その他正当な目的のために子どもに関する個人情報を使用している。入園時にその旨重要事項説明書で説明して保護者の同意を得て、写真の活用についても意向を踏まえている。おもむき交換交換台や保育室の一角を専用の場所として他から視線を遮るよう工夫し、トイレ使用時は扉を閉め、お漏らしはさり気ない着替えを支援している。着替えは上下順番に肌の露出を少なくし、プールは外から見えない場所に設置し、5歳児はラップタオルを使用するなど、配慮している。 集団生活の中であっても子ども一人ひとりに目を向け丁寧に関わっている 子どもの呼び名は「ちゃん」「くん」を基本に保護者の意向を確認して決め、誕生日当日には友だちや職員から「おめでとう」をプレゼント。保育の場面では「〇〇しなさい」等の押し付けではなく「〇〇でいいですか」「〇〇しませんか」等と声をかけ、子どもが自分から前向きな気持ちになるような対応をしている。生活の区切りの時間に気持ちの切り替えが難しい子どもに対し、一人ひとりの気持ちに寄り添い丁寧に関わっている。集団生活の中であっても「個人」に目を向け尊重し、自己肯定感を育てる質の高い保育を実践している。 「権利擁護・意思の尊重」を実践している 子どもの表情や仕草等小さなサインを見逃さず、保護者の子育ての不安や気がかりについても傾聴して育児困難や虐待防止への支援をしている。虐待防止について研修で学び、行政の虐待防止パンフレットを掲示、早期発見が出来るよう一人ひとりを把握。職員が子どもの気持ちを傷つける不適切な言動をしないよう保育中の様子が職員間でよく見える環境を活かし、互いの関わり方を話し合える環境がある。気になる子どもに関しては園長が対応、関係機関及び児童相談所と連携をとりながら対応にあたる仕組みを整えている。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
運営・保育実践を支える手順書を整備している 運営法人として、系列各園の運営の基盤となる基本事項や手順を、マニュアルやガイドラインとして定めている。事故防止や不審者対応、虐待防止、危機管理ほか、日常の保育や健康管理などの分野における対応手順を明確化し、手順に沿った業務の遂行による安全・安心の保育実践を支えている。 内部研修、外部研修、法人研修などを通して学びを深めている 職員会議の場を活用してテーマに基づく研修を実施したり、外部機関主催の研修に参加したりすることを通して、一人ひとりが必要な力をつけ、専門性を向上させ、実践に活かしていけるように取り組んでいる。また運営法人として、入社時にビジネスマナー研修を実施し、保護者対応、電話対応、職場でのコミュニケーションなどについて学べる機会を設定している。さらにコンプライアンス研修を実施し、職業倫理の理解・定着を図る取り組みを徹底している。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			☐ 非該当
評価項目1の講評				
子どもが生活やあそびの中で周囲に主体的に働きかけられるよう支援している 保護者との日常的な対話や個人面談、連絡帳のやり取りから、子どもの家庭での様子や家庭環境を把握し、保育記録や発達チェック表、経過記録などから個別の発達状況を検討し、保育内容に反映している。「何を感じてどうしたいのか」など、言葉で表現しきれない気持ちに心を寄せながら、子どもが様々な物や事柄に関心を持てるようかかわっている。散歩に出かけて季節や自然を感じたり、野菜の皮むきを楽しんだり、保育室を飾る装飾を作ったりするなど、様々な経験を積み重ねている。 日常的なクラスの枠を超えた様々な関わりが子どもの育ちを豊かにしている 2歳児まではクラスごとの活動を基本に異年齢での活動も積極的に取り入れ、3歳児以上を混合クラスとした異年齢混合保育を導入している。異年齢でのかかわりの中で年上の子は小さい子を慈しみ、接し方を身につけ、小さい子は年上の子の優しさに触れ、憧れ、真似てみるなど育ち合う姿がある。3歳児以上は年年齢別保育にも配慮した日課による活動を実践している。子どもの様子から気になる点があれば、臨床心理士の巡回相談や関係機関との連携を活かす体制がある。 子どもの気持ちに寄り添った対応を重ね、心の成長を援助している 発達の過程で生じる心の行き違いによるけんかや噛みつき・ひっかきなどは、人間関係の土台を作る機会であるという考えに重点を置き、なるべく見守り、怪我につながる前にそれぞれの気持ちを尊重し、分かりやすい言葉で諭して解決に導いている。年月齢に応じ玩具を取り合わない数の提供や距離感にも配慮している。5歳児は身の回りのことは自分でする、人前で発表する、文字・数・図形に触れるなどの経験を積み重ねている。				

2 評価項目2		
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
家庭保育との連続性を大切にしている 朝の登園時には保護者は保育室前の廊下まで入り、子どもの検温や身支度を済ませて職員に子どもを預けている。職員は健康観察をしながら子どもの体調や迎えの時間、怪我の有無や状況について確認している。前日に体調不良などで欠席したり、怪我を負ったりした場合には、降園後の経過を把握している。併せて、前夜の睡眠や朝食などの状況も必ず確認し、職員間で共有している。連絡帳の内容もクラス担任全員で確認し、子どもの状況を把握した上で1日の活動をスタートさせている。 年年齢に応じて基本的な生活習慣を身につけられるよう援助している 子どもの発達に応じて基本的な生活習慣が身につくよう、経験する内容を計画に組み込んでいる。年齢・発達に応じてスプーンやフォークなどの食具を用意し、子どもが食具を迷わず使用し、正しい姿勢で一人で食べられるようになり、箸の導入に進んでいる。おむつ外しは1歳から興味に合わせて座り始め、3歳児クラスへ移行する段階を目安にして保護者と連携して個別対応している。 子どもの様子を保護者に伝え、安心につなげている 年年齢や前日の家庭での睡眠の状況を考慮し、園で調整して休息時間を確保している。降園時には、体調や怪我などのほか、今日頑張った事、出来た事、褒められた事などのエピソードを保護者に伝え、楽しい家庭保育につながるようになっている。子どもが初めて出来た事は保護者の喜びに共感している。担任不在時は引き継ぎノートを活用して対応し、園長も可能な限り保護者に声をかけ、保護者を労い、子育ての悩みなどに耳を傾けている。		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○ 非該当
評価項目3の講評			
子どもの声を大切に、自主性・自発性を尊重し、遊び込める環境を設定している 子どもの自主・自発性を尊重し、遊びを通して様々な学びの機会を提供している。保育所保育指針が示す養護と教育の一体的な保育を受け、全体的な計画や各計画を作成し、毎日の活動につなげている。2歳児までは年齢別保育を、3歳児以上は異年齢合同保育を実施している。パズルやブロック、絵本、粘土、積み木、電車、知育、見立て遊びなどに落ち着いて取り組めるコーナー保育を織り交ぜ、子どもの心を大切にしている。散歩先や子どもの「～がしたい」という日頃の声にも耳を傾けている。 「人を育てるわらべうた」を取り入れ、自分を表現する機会を持っている わらべうたを保育の中に積極的に取り入れている。コミュニケーションを取ることで大人との心のつながり、子ども同士の心のつながりを築いている。わらべうたは毎月外部講師が指導にあたり、言葉に触れ、興味を持ち、友だちとのかかわりを広げ、互いに刺激合い育つ姿がある。わらべうたは大人の掛け声なしで始まり展開し、幅広いわらべうた遊びを通して集団での活動にも主体的にかかわったり、互いにスキンシップを重ねることにより人に対する信頼感や思いやりの心を育んでいる。親子交流会などの行事では保護者もわらべうたを体験している。 四季折々の変化を感じながら自然と触れ合っている 散歩などの戸外活動を日々取り入れている。天候や子どもの体調などにも配慮しつつ、可能な限り戸外に出かけている。春は草花の芽吹きを感じ、夏は新緑を受けて虫たちと戯れ、秋は豊かな実りを感じながら落ち葉や木の実を持ち帰り製作に活かし、冬は氷や雪に瞳を輝かせている。保育士による声かけを助けにそれぞれの季節を身体で受け留め、感性を育んでいる。			
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
年間行事を通して興味や関心を刺激し、積極的な参加のきっかけを作っている 互いに協力し、目標を持って行事に取り組めるようにしている。節目節目の伝統的な行事に加え、今年度は子どもの提案でお店屋さんごっこも取り入れた。行事は子ども、保護者、職員、関係者が皆力を合わせて取り組んでいる。行事の前には、絵本や歌、わらべうた、紙芝居、制作活動などの多彩な導入プログラムを提供し、子どものワクワク感やどきどき感を刺激している。特別な行事食も用意して本番を迎え、思い出として残る経験を積んでいる。 日本の伝統文化を伝え、季節を感じる行事を実施している 伝統的な日本文化を伝え、思い出に残る年間行事を多彩に繰り広げている。新入園児の歓迎、子どもの日や絵本で学ぶ虫歯予防デー、願いを込めた短冊を笹に飾り七夕会、夕涼み会、ハロウィン、サンタが遊びにやって来る日、餅つき、お正月遊び、節分、ひな祭り会、卒園・進級式、お別れ会など、それぞれの時期の節目となる行事により、季節感や行事の由来に触れたり、ともに作り上げたり、楽しみを共有したりしている。 ともに作り上げる喜びや達成感などを体験している 保護者と子どもが成長を喜び、子どもの達成感につなげている。運動会では「親子でからだをうごかそう」をテーマに、卒園児や兄弟児も参加している。親子競技やわらべうた遊び、保護者のデカパン食い競争などでふれあい、最後は異年齢混合リレーで全保護者が歓声と拍手とともに子どもの成長を実感している。制作は様々な素材や技法を、年齢に拘らず個性を大切に手取り入れ、作品は園内に展示している。3歳児以上の保育室の壁には大きな1本の木を飾り、季節に応じた色合いを醸し出している。			

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
年齢を超えて遊ぶ経験を通して、思いやりや慈しみの心を育んでいる 遊びは、子どもの自主性、自発性を尊重し、子どもの要望にも配慮した玩具を提供している。落ち着いた時間を過ごせるよう、絵本やままごと、構成あそびのコーナーを設置している。大きな子どもが小さな子どもと一緒に遊び、遊びの上手な子どもが教えながら楽しんだり、時には掃除を手伝ったり、子どもの豊かな世界が繰り広げられている。子どもが遊び込める環境の中で過ごし、少し疲れた子どもにはゆっくり休める環境や気分を切り替えられる空間も提供している。 子どもが安心して保護者を待てる環境を提供している 子どもが落ち着いて保護者を待てる環境を提供している。スキンシップを図りつつ、興味のある玩具の提供や言葉かけなどにより、遊びに向かうことが出来るように配慮している。思い切り遊ぶ、ゆっくり休むなど、動と静のメリハリある保育を提供している。お腹が空くと淋しさを感じることから、18:00に夕おやつ、18:30に夕食を提供している。降園時保護者対応は、子どもの頑張った姿や出来た事など、ポジティブなエピソードを多く伝え、健康面や怪我、お願い事などなど必ず伝え、充実した家庭保育につないでいる。			
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
子どもが食を楽しみ、ゆったりと食に取り組めるよう配慮している 子どもに食の大切さを伝える食育に力を入れている。栄養士による献立は、栄養の豊かさやバランスに配慮したサイクルメニューで、旬の食材や香り、彩り、旨味なども考慮している。おやつは降園時間を意識して腹持ちの良い献立を提供している。0歳児は1対1で、1歳児は2～3対1と少人数で食事の環境を設定している。幼児は自分の食べられる量を選ぶよう声をかけたり、自分で配膳したりしている。子どものリクエストに応えるお楽しみ給食やバイキング食、行事食などを取り入れ、メリハリを工夫している。 健康的で安心・安全な食を提供している 初めて口にする食材は家庭で始め、連携して経験食材を増やすことを目指している。食物アレルギーには、除去や代替により対応している。アレルギー対応ルールを決めて全体に周知し、テーブルを分けて専用トレイと食器を使用し、個別に対応している。好き嫌いや過食、散漫などが見られる場合は保護者と連携し、改善につなげ、様々なメニューを献立に取り入れている。 健康的な食を意識し、保護者と子どもが食の大切さを実感できる取り組みを行っている 毎月の献立表や離乳食献立表、給食だよりなどにより、食育に関する豆知識を保護者に提供している。裏庭では3歳児以上が米、なす、ピーマン、ミニトマト、ゴーヤ、スナップエンドウ、じゃがいも、落花生などを栽培している。水やり当番などをしながら成長を観察し、収穫物を給食で楽しんでいる。野菜洗いやちぎり、カットなどの調理にも挑戦し、食材洗いや皮むきの参加し、夏は野菜カレーを作った。2歳児ではミニトマトやスナップエンドウを栽培し、「もうたべられるかな」と瞳が輝かせている。			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている			○ 非該当
評価項目7の講評				
安全な生活を身をもって理解し、快適な生活を継続できるよう取り組んでいる 子ども自身が危険に気づき、安全に生活できる力が身につくよう援助している。散歩は手つなぎで歩行し、信号のある横断歩道を優先して利用するほか、信号のない道では「車が来たから止まろうね」「渡ります」と左右確認が習慣になるよう声かけしている。公園では安全に遊べる状況を確認した上で、遊具の使い方を子どもと約束してから遊び始めている。手洗いやうがいも年齢・発達に応じて取り入れるほか、室内の温度・湿度も適宜確認し、心地よい環境を整えている。 専門機関の連携しつつ健康的な日常生活を支えている 子どもが心身の健康を維持出来るよう、健康調査票を用いて健康状態を把握している。嘱託医による内科健診や歯科検診のほか、身長・体重の測定、頭囲・胸囲の測定などを定期的実施している。医療的ケアが必要な場合は、入園時に診断書を提出してもらい、嘱託医と連携を取る体制としている。保育室の床は足触りのよい素材を使用し、扉の突起物はクッション材を施し、清掃や玩具の消毒の実施と合わせて安全で清潔な環境維持に努めている。 保護者の様々な子育てへの戸惑いを専門的に支え、安心した家庭保育への取り組み 保護者の健康に関する疑問には登降園時の対話を中心に対応している。2歳児までは視診と体の状態もチェックし、3歳児以上は体調を自己発信することを促している。感染症やSIDS情報、行政や保健所発行のお知らせを園内に掲示し注意を喚起している。保健だよりでは衛生管理や感染症の注意、予防接種やワクチン情報を発信している。薬の預かりについては、個別状況に応じて医師の指示書・薬情を提出して頂き、看護師が与薬している。				
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている				
評点(〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している			○ 非該当
評価項目8の講評				
それぞれの家庭事情を踏まえて柔軟な対応をしている 入園前の生活状況や要望を児童票に記入してもらい、それらの情報を保育計画の作成に活かしている。慣らし保育は必要である事を伝え、短時間から徐々に移行する事を勧めてつつ、個々の状況にも配慮して対応している。保育時間の変更は電話連絡を依頼し、残業で遅くなる場合は17時までの申し出により補食を、13時までの申し出により夕食を、それぞれ提供するなど、保護者の就労を応援している。 保護者同士がつながりを持ち、共に子育てを楽しめるよう取り組んでいる 年間を通して保護者が交流できる機会を設けている。入園式・進級式での顔合わせ、クラス懇談会での子育てをテーマとした懇談、夕涼み会ではのぞみ茶屋で隣合わせ、運動会では保護者が二人組でデカパンを履きパン食い競争でゴールを目指す、餅つきでは協働して楽しむ、日常的に園内で顔が合えば互いに挨拶を交わす等、関係を深めている。半日保育士体験では保護者の7割程度が参加し、参加後の個人面談では子どもの育ちを職員と確認・共有しつつ、園運営への理解を深めている。 保護者の子育てに関する様々な情報を有意義に伝える取り組みがある 園と家庭での子どもの姿の共有、子育て相談など、様々な保護者対応がある。保護者会、懇談会、個人面談、保育参観などのほか、懇談会ではクラス毎に子どもの成長・発達に関して話し合っている。登降園時の保護者との対話はもちろん、連絡帳を有効な重要ツールと位置づけ、記録の内容・方法、文面の表現、質問への回答内容等、園長・主任は職員に対して指導している。そのほか、福祉サービス第三者評価の保護者アンケートや運営委員会等を通して、保護者の生の声を取り入れている。				

9 評価項目9		
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
評価項目9の講評		
公園や戸外で自然に触れ、地域住民に愛されて育つ子どもの姿がある 天気の良い日には公園や戸外に出かけ、地域との交流を行っている。帽子や靴下などの身支度を整え、クラスごとや合同で出発している。年月齢に応じて避難者や手つなぎ歩行で出かけている。出会った人と「こんにちは」と挨拶を交わし「お先にどうぞ」と道を譲られ、「青になれ～」と信号を待つ子どもに微笑む地域の方々の姿がある。公園では近隣も保育園と友だちと出会い交流し、また、高齢者施設や小学校との関わりのほか、近隣神社での豆まきへの参加、給食の食材は地域の肉屋・魚屋・米屋から納品するなど、地域資源を活用している。 他者との関わりの広がりを目指して取り組んでいる 夕涼み会、もちつきなどには地域の方や卒園児を招待している。夕涼み会はアトラクションや各種ゲーム、手作りおやつを提供するのぞみ茶屋、手作り神輿、盆踊りなどを楽しんでいる。もちつきではつきたての餅を堪能し、ブンブンゴマなどを作って遊ぶ伝承あそびで懐かしいひと時を過ごしている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	共通理解に立った関わりを職員各自が実践・追求している	
内容①	日々の保育を進めていく上で、基本理念や「子どもにとってどうなのか」という視点を発想や振り返りの基礎に置き、共通の理解に基づいて対応していけるよう取り組んでいる。「見通しを持って生活する」ことを念頭に置き、食事や着脱、声かけなど、どの職員であっても同じような対応の実践を図っている。「子どものリズムやペースに合わせて大人が動く」という子どもを中心した発想・動きを、職員全体で追求している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル②	保育に従事する上で必要な規範意識の定着を図っている	
内容②	業務に携わる上で守るべき法・倫理・規範などについて、新入職員のみならず職員全体に対して理解を深めるための取り組みを行っている。特に、年に一度、コンプライアンス研修を実施している。運営法人としてコンプライアンスに関する方針を明確化した上で、個人情報保護の意義や内容、コンプライアンス違反に直面した時の行動などについて周知し、確認テストにより理解度の確認や定着を図っている。職業倫理の理解・定着を図る取り組みとしても、園に対する信頼を確実なものとする取り組みとしても機能している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの興味・関心を引き出す活動を用意し、自分で選んだ遊びを満足するまで没頭できる環境がある
	内容	子どもの自主・自発性を尊重、主体性も大切に遊びを通して様々な学びを伝えている。2歳児までは年齢別保育を、3歳児以上は異年齢合同保育を実施している。指導案に沿った保育を基本とし、パズルやブロック、絵本、粘土、積み木、電車、知育、見立て遊びなど、落ち着いて取り組めるコーナー保育を織り交ぜながら子どもの心を大切にしている。幼児は子どもの興味・関心を誘い、年齢毎の発達に応じた活動を提供している。構成遊びを中心に、生活の区切りの時間には後で活動の続きに取り組めるよう全てを片付けなくてもよい環境を用意している。
2	タイトル	「人を育てるわらべうた」を園が大切に取り入れ、子どもが自分を表現できる環境を整備している
	内容	園ではわらべうたを積極的に取り入れ子どもを支えると共に、コミュニケーションをとることで大人との心のつながり、子ども同士の心のつながりを築いている。わらべうたは毎月外部講師が指導、言葉に触れ、興味を持ち友だちとの関わりを広げ、互いに刺激し合い育つ姿がある。大人の掛け声なしで始まり展開し、全園児が幅広いわらべうた遊びを通して集団活動に主体的に関わったり、互いにスキンシップを重ねることにより人に対する信頼感や思いやりの心を育んだりしている。親子交流会や運動会、餅つきなどでは、保護者もわらべうたを体験している。
3	タイトル	これまでの取り組みの蓄積の上に、職員の思いや納得を踏まえながら理想の保育を追求している
	内容	クラスリーダー出身の現園長の下での職員体制となって2年目、法人の理念やこれまでに大切にしてきた考えなどを押さえながら、トップダウンではなく、リーダー会議での協議を経て方向性を共有していくなど、一体となった運営を進めている。また、なるべく職員の意見や考えに耳を傾け、気になった点については、否定・指示・命令ではなく気づきを促し、職員の自主性・主体性を後押しするかかわりを心がけている。同時に、園長や法人・スーパーバイザーによる助言・指導を通して、理念に基づく取り組み、一貫した保育実践を追求している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	乳児を含め、園としての食育の取り組みを一層広げていく
	内容	年間食育計画を作成、毎月の献立表や定期的な給食だよりを発行、食育豆知識等の保護者へ情報提供を行っている。園庭では3歳児以上が米、なす、ピーマン、ゴーヤ、スナップエンドウ、じゃがいもなどを栽培、子どもが水やり当番、成長を観察し収穫、給食で楽しんでいる。野菜洗いやちぎり、カット等にも挑戦、食材洗い、野菜の皮むき等で協力し夏野菜カレーを作った。クリスマスクッキー等年2～4回のクッキングを実施。0・1歳児も含め、食材に触れることから始め、ちぎる、練る、捏ねる等、食育の実践をもう一歩進めていくことを課題としている。
2	タイトル	3～5年先の園としての見通しやありたい姿を形にしてい
	内容	現在、年度単位の事業計画を策定し、運営・実践を行っている。今後は、園としてのありたい姿の実現やそのために取り組んでいくべき課題などについて、中長期的な見通しのもとで位置づけ、着実な取り組みを行っていくようにしていくことを課題としている。
3	タイトル	地域とのつながり作りに今後も取り組んでいく
	内容	徐々に地域との交流を進めている。小学校には見学に行き、園と学校との違いに触れ、刺激を受けたり、就学への期待を高めたりする機会となっている。園としては、近隣の保育園との交流に意欲を持っている。子どもの生活の幅・経験の広がり、大人同士の情報交換などの期待されるメリットもある。今後も引き続きつながりを開拓し、充実させていくことを課題としている。